

主要機能

事業継続性を
拡張性、高性能と共に

WANdiscoの特許技術により、100%のアップタイムとLANスピードでの同一データへのリードライトを全てのサイトから可能とします

柔軟な拡張

実証されたアーキテクチャにより、多様なシステム形態を迅速・簡単に構成可能

コンピュータリソースを
100%活用

受動的なバックアップサーバの必要がなくなり、全てのハードをフルに使えます

クラスタゾーニング

クラスタ内の全てのサーバをハイエンドサーバにすることなくバッチと大量のインメモリアプリケーションを一緒に動かせます

複数データセンタでの
データ投入

複数のデータセンタで同時にデータを投入し、どこからでも解析できます

複製範囲指定でグローバルアクセスを可能に

組織内にどのようにデータが分散していても全てのグローバルデータを使っての解析が可能

購入前に是非、
トライアルを！

www.wandisco.com/jp

日本
080-6504-5602

米国
+1-925-380-1728

APJ
+61-2-8211-0620

Email
wandisco.japan@wandisco.com

WANdisco Fusion

Hadoopのビジョンはデータサイエンティストの夢です。即ち、欲しいだけのデータをシームレスに自分のデータとして使えるデータレイクです。しかしながら実現は難しいというのが現実です。

WANdisco社のFusion™はクラスタ、Hadoopディストリビューション、ファイルシステムを跨がってActive-Activeでデータを連携する唯一のHadoop互換ファイルシステムです。

70%の会社は複数のクラスタを所有しており、44%が企業向けのバックアップソリューションがない事が展開の足かせであるとしています。45%のデータサイエンティストはクラスタが自分たちの要求に追い付いていないと考えています。43%の会社はセキュリティがHadoop自身の制約同様、クリティカルと考えています。研究者はアプリケーションに特化したクラスタを推奨します…その一方でデータがサイロのように分断されることに警鐘を鳴らしています。

どのように、複数のHadoopクラスタで効率的、高速かつセキュアなデータエンジンを構築できるでしょうか？上記のような落とし穴にはまることなく如何にして展開しているHadoopから最大のビジネス価値を引き出すことが出来るでしょうか？

WANdisco Fusion は

シンプル: 単一のクラスタを超えてデータを一元的に利用可能

エレガント: 各クラスタ上に最適なストレージ、ファイルを分散可能

実証済: 10年以上の使用実績のあるActive-Active複製エンジンにより実現

特長

事業継続性を拡張性、高性能と共に

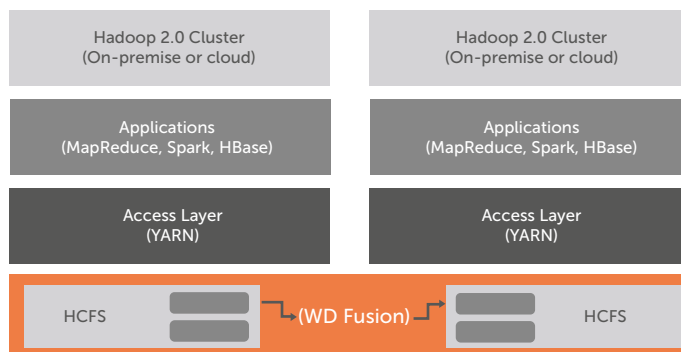
WANdisco社の複製技術(特許取得済技術)により複数のActiveなクラスタ間での負荷分散が可能となります。各クラスタはクライアント要求を同時に処理し、距離が離れている場合も含め、複数データセンタ間での同期を常に取ります。クライアントはデータ損失、ダウンタイムなしにLANスピードでどこのサイトでも同じデータを読み書きできます。Hadoopの新しいバージョンがリリースされた時もローリングアップデートによりダウンタイムはありません。これらの機能はデータ可用性、ディザスタリカバリに対する最も厳しい規制、ビジネス要件を満たすものです。

柔軟な拡張が可能

WANdisco Fusion は異なるHadoopディストリビューション、ストレージ構成、オンプレまたはクラウド上に跨るクラスタ間でActive-Active の複製を行い、多様な形態でのHadoopシステム有効活用を可能とします。新しい要求への対応を検証しながらアップグレード、マイグレーションを順次、行う事ができます。

コンピュータリソースを100%活用

WANdisco Fusionには受動的スタンバイサーバは存在しません。Active-Activeアーキテクチャにより全てのサイトの全てのサーバがリード・ライト可能となります。リードオンリーのバックアップサーバ、十分使い切っていないクラスタでお金を浪費することはありません。範囲指定可能な非同期ブロック複製機能により各拠点のデータセンタは各々、自由な構成を組むことができ、一層の効率アップが可能です。



クラスタゾーニング

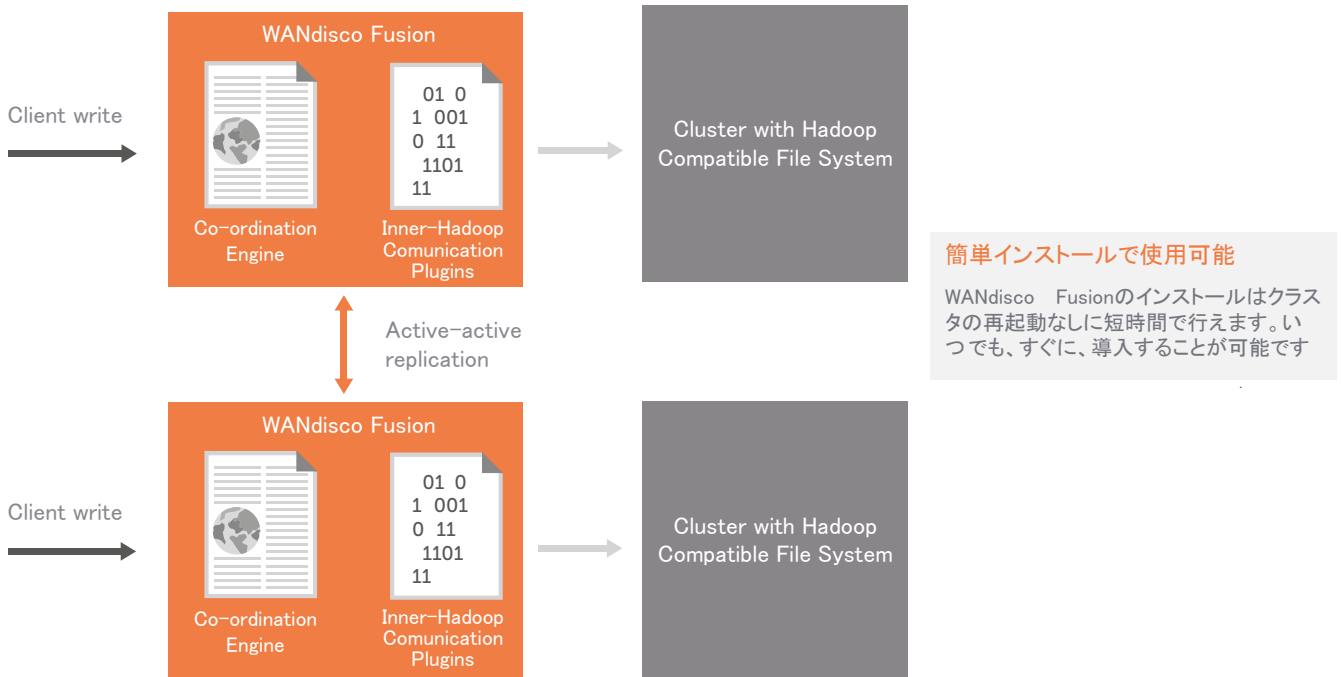
クラスタ内を全てハイエンドサーバにすることなく、バッチ、インメモリ・リアルタイムアプリケーションの両方を、最適なハードウェア構成で動かすことができます。リソースを必要とするアプリケーションはハイエンドサーバで構成されるゾーン(仮想クラスタ)で動かし、バッチはローエンドのコモディティサーバのゾーンで動かすことができます。これにより大幅なコスト削減が可能になります。また重要なアプリケーションには切り離された最適リソースを割り当てることで顧客に対するQoSを確保できます。

複数データセンタでのデータ投入

Active-Activeアーキテクチャによりデータは任意の数のサイトに自動的に複製され、単一障害点(SPOF)は存在しません。どこからでも同時に取り出し、解析を行うことが可能となります。DistCPや他の同様のツールでデータを入力されたサイトから解析を行うサイトへコピーするシステム管理者の負担やエラーのリスクをなくすることが出来ます。世界中で生成される情報がタイムリーかつ正確に処理できる事がグローバル企業においては求められており、弊社はこうした要求を持つ多くの顧客に対応しております。

複製範囲指定によるグローバルアクセス

大規模なHadoopシステムでは選択したデータのみを複製を持つことが可能です。解析アプリが動くところにデータが存在しない場合はオンデマンドでデータを持って来る機能も提供しています。これら機能によりネットワーク帯域を有効に活用しながら、全社データに基づく解析が容易に行えるようになります。同時にセンシティブなデータを安全に隔離することも可能となります。



システム要件

OS

RedHat 6.1 and later
CentOS 6.1 and later

ソフトウェア

JDK 6, 7
HCFS-compatible file system

ハードウェア
最低2クラスタ

サポートおよびサービス

WANdisco FusionにはWANdisco社の24x7を含めた企業向けサポートが提供されています。

サポート範囲

WANdisco Fusionに関わる全ての問題

対象にならないもの

ディストリビューションのHadoopそのものは対象外ですのでHadoopベンダーにご相談ください。問題がどちらか不明の場合は、WANdisco Fusionを一時的に停止して、再現テストを行い、切り分けをお願いします。

購入前には是非トライアルを！

評価版のダウンロードはこちらから www.wandisco.com/jp



日本

080-6504-5602

米国

+1-925-380-1728

APJ

+61-2-8211-0620

Email

wandisco.japan@wandisco.com